

〈労農記者クラブ扱い〉

報道関係者 各位



令和元年7月29日

【照会先】

大阪労働局労働基準部安全課

安全課長 下岡恵輔

主任安全専門官 佐光和夫

(代表電話) 06-6949-6496

(夜間電話) 06-6949-6497 (17:15以降)

昨年9月の台風21号に関連する 労働災害発生状況を公表します。

～ 建設業、商業、運輸交通業での発生が顕著 ～

大阪労働局（局長 井上 真）では、今般、平成30年9月の台風21号に関連する大阪労働局管内で発生した労働災害について集計を行いましたので、その結果を公表します。

平成30年9月4日から令和元年5月末までに労働基準監督署に提出された労働者死傷病報告（死亡及び休業見込み日数が4日以上のもの）について台風21号通過時の労働災害と関連した労働災害（台風被害の原状回復行為に伴うもの（以下、「復旧工事等」という。））を集計したところ、以下の結果となった。

大阪労働局では、6月からの『夏季死亡災害防止強化期間』での取組とあわせ、建設業における墜落転落災害の防止、特にスレート屋根工事等における踏み抜きによる墜落災害の撲滅にむけて監督指導、啓発活動に取り組むこととしている。

【死亡者数について】

- ◎ 台風21号通過時に係る死亡者数 1人
- ◎ 復旧工事等に伴う死亡者数 8人

【休業災害について（休業見込み日数4日以上のもの）】

- ◎ 台風通過時の災害により休業を伴う被災者数 86人
- ◎ 復旧工事等の災害により休業を伴う被災者数 69人

台風通過時では、商業、運輸交通業での被災者数が多い。事故の型別では「転倒」、「激突され」、「飛来、落下」など強風下の影響のもと配達、建屋の点検等を行ったことによる被災が多くを占めた。

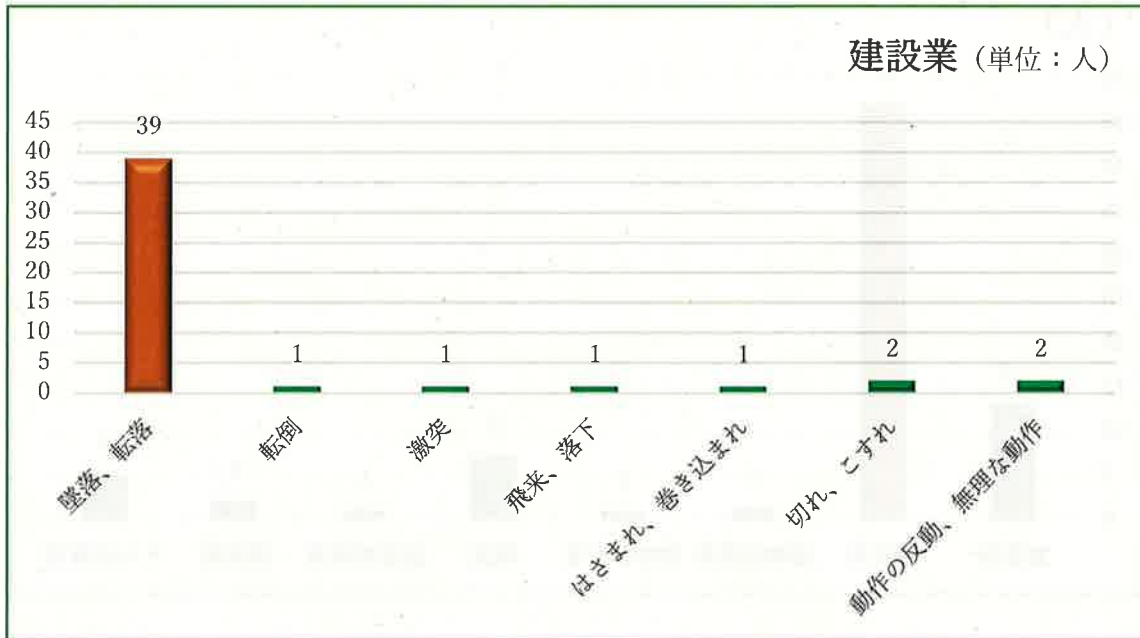
復旧工事等では死亡、死傷災害ともに建設業が圧倒的に多く、大半が「墜落、転落」による災害で、スレート屋根等ぜい弱な屋根の踏み抜きによるものが多くを占めた。

死亡災害事例

	(業種) 事故の型	年齢	経験年数	発生状況
通過時	(商業) 転倒	40代	7年	路上に落下した屋根（金属製折板）の撤去作業中、台風風の風により後ろ向きに転倒し、後頭部を打って被災した。
復旧工事等	(建設業) 墜落・転落	40代	28年	台風21号による2階建て住宅の被害調査及び雨漏り養生を2名で実施していたが、足りなくなった養生シートを同僚が取りに行っている間に、2階屋根からはしごで降りようとしたところ、はしごを踏み外し、1階屋根に墜落したうえ、地面まで墜落した。
復旧工事等	(建設業) 墜落・転落	60代	27年	台風21号により損傷した屋根の応急措置としてブルーシートによる養生を行うため屋根の梁部を通行中、誤ってスレート部分に足を掛け、踏み抜き、約12mの高さから墜落した。
復旧工事等	(建設業) 墜落・転落	60代	36年	台風21号の強風で資材倉庫屋根上の手すりとネットフェンスの一部が吹き飛ばされたため、復旧作業を行っていたところ、屋根の端より2.8m下に墜落した。
復旧工事等	(建設業) 墜落・転落	50代	35年	台風21号により被災した倉庫の屋根を修理するため、補修材を持ち、屋根上を移動中、スレートを踏み抜き9.8m墜落した。
復旧工事等	(建設業) 墜落・転落	70代	50年	台風21号により破損した屋根明かり取り用FRP波板交換作業のため、スレート葺き屋根に登り、幅21センチメートルの歩み板2枚の上で交換作業を行っていたところ、スレートを踏み抜いて約4メートル墜落した。
復旧工事等	(建設業) 墜落・転落	40代	8年	台風21号により破損したスレート屋根補修作業中に、スレートを踏み抜き、高さ約10mから墜落した。
復旧工事等	(製造業) 墜落・転落	70代	18年	台風21号により倉庫の屋根が破損したため、雨漏り防止用シートを敷くために、スレート葺き屋根上に上がり、丸めたシートを広げていたところ、棧と棧の間のスレートを踏み抜き、約5m下に墜落した。
復旧工事等	(建設業) 墜落・転落	20代	4年	台風21号により宿泊所屋上のフェンスが傾いたため傾きを垂直になるよう、フェンスの外側に出て中庭に設置された高さ約18mの足場の作業床上で足場外側からフェンスを支える役割を終え、同足場の上の手すりに寄りかかって座り込んだところ、高さ93cmの手すりとの作業床の隙間から後ろ向きに転落した。

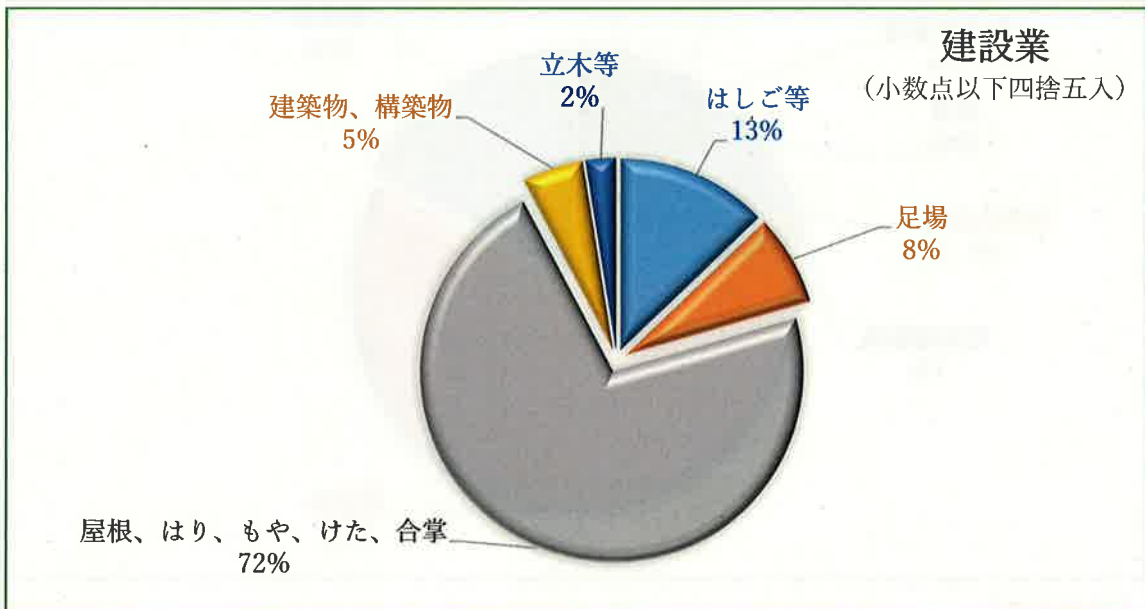
(表 11 の 1) 台風 21 号通過後の復旧工事等に係る建設業：事故の型別被災者数

(47 人の内訳)



(表 11 の 2) 台風 21 号通過後の復旧工事等に係る建設業：墜落、転落災害の起因物別被災者の割合

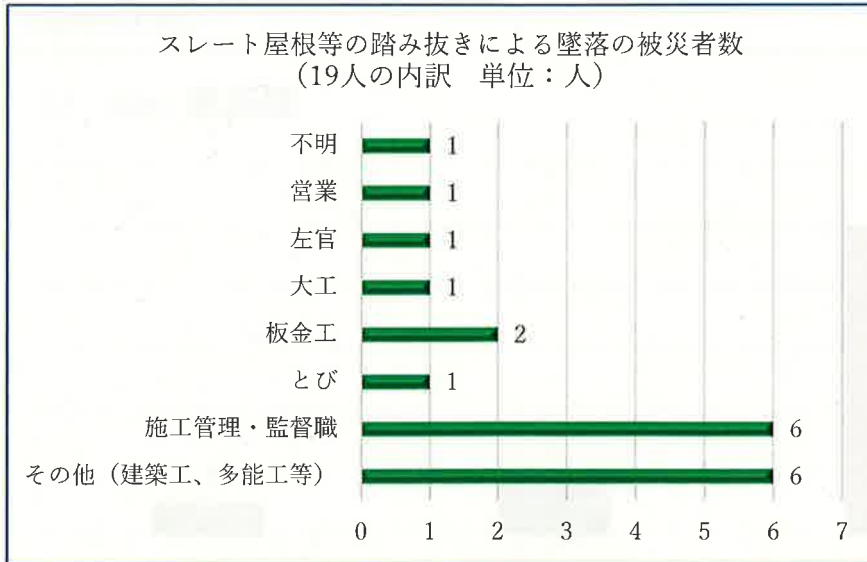
(47 人の割合)



(コメント)

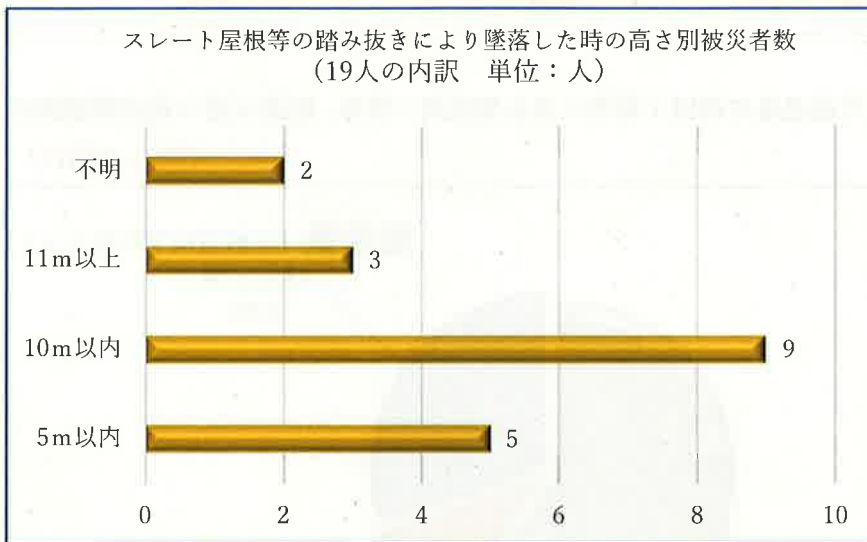
災害復旧工事等に係る災害は建設業が最も多い (47 人) が、事故の型別では「墜落、転落」による災害が 39 人 (約 83%) と 8 割を超え大多数を占めた。また、「墜落、転落」した起因物は「屋根、はり、もや、けた、合掌」で最も多く、屋根の修理工事中での災害が大半 (72%) を占めた。(建設業における墜落、転落災害に係る傾向については、別掲。)

(表 11 建設業の別掲)



別掲(表1)

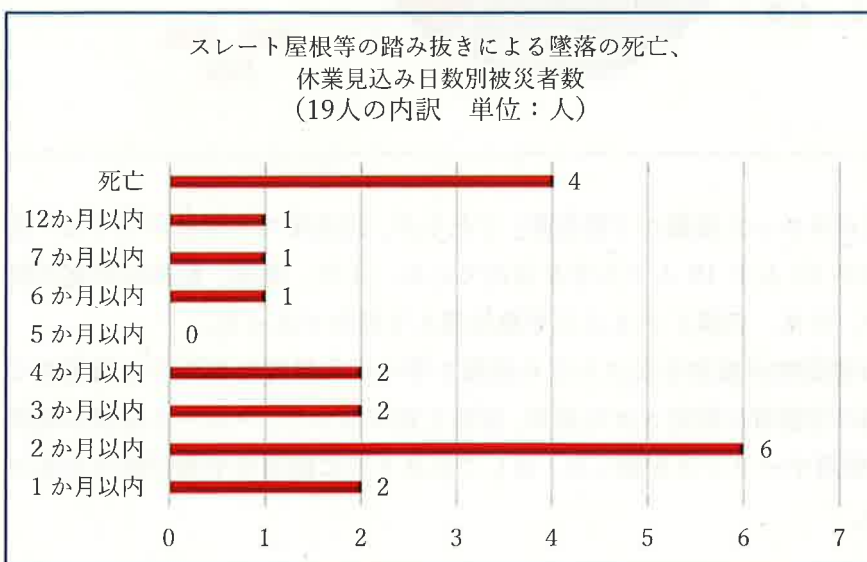
職種別では施工管理や現場監督職など管理系統の職員の災害が3分の1(約32%)近くを占めている。



別掲(表2)

墜落時の屋根等の高さは10m程度の高さが多い。

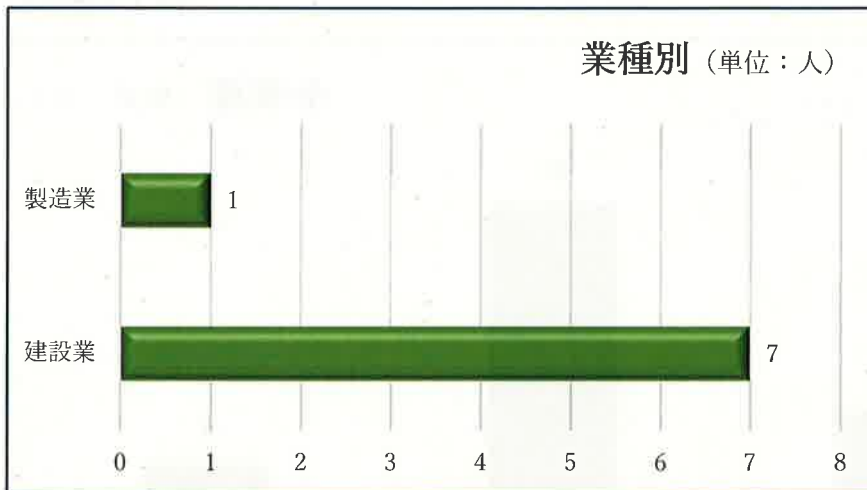
(注：死傷病報告の記載が約5mや約10mと説明があったものは、それぞれ5m以内、10m以内に含めている。)



別掲(表3)

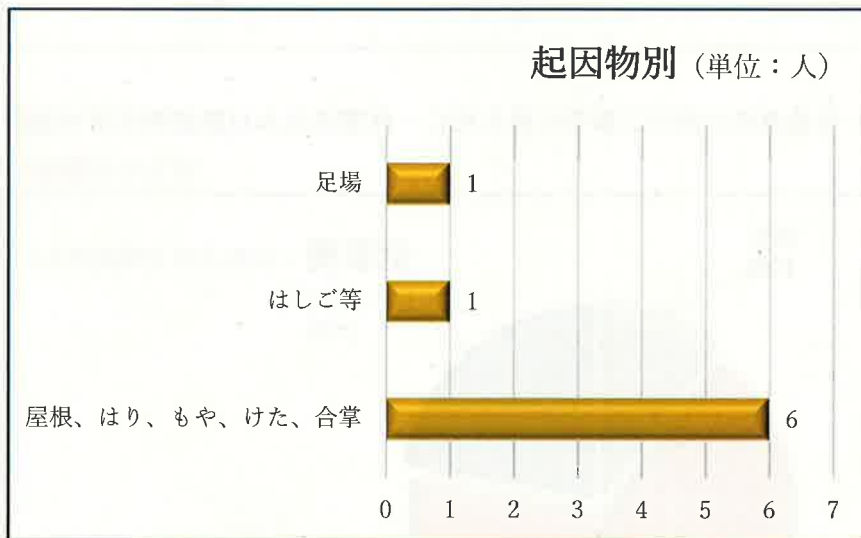
墜落した場合は、多くの場合、死亡または休業見込み日数が1か月を超えている。

(表 17 の別掲) 復旧工事等による死亡者 8 人の内訳



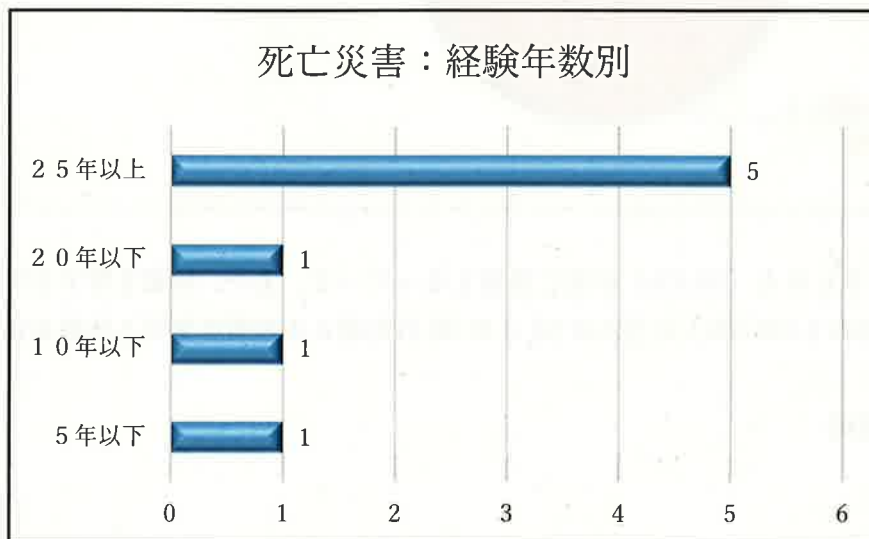
別掲 (表 1)

復旧工事等に係る死亡者 8 人のうち 7 人が建設業であった。



別掲 (表 2)

同死亡者の事故の型は全数が「墜落、転落」によるもので、起因物は「屋根、はり、もや、けた、合掌」が多数を占めた。



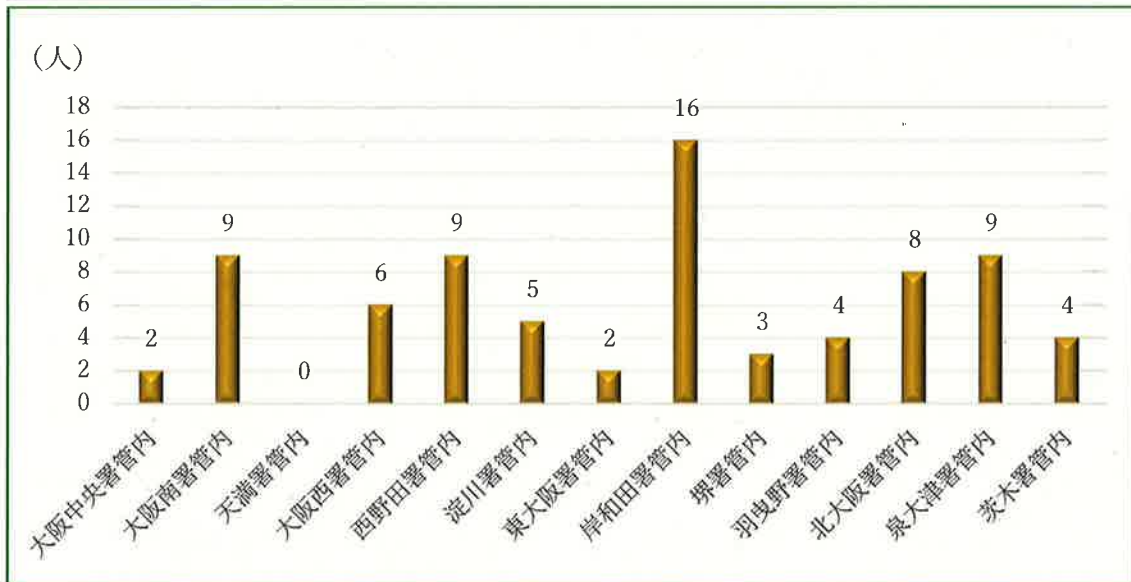
別掲 (表 3)

同死亡者の経験年数別では 25 年以上が半数を超え 5 人であった。

なお、勤続 20 年以下の 1 人は製造業の労働者である。

(表 18) 台風 21 号通過後の復旧工事等に係る労働基準監督署管轄別被災者数

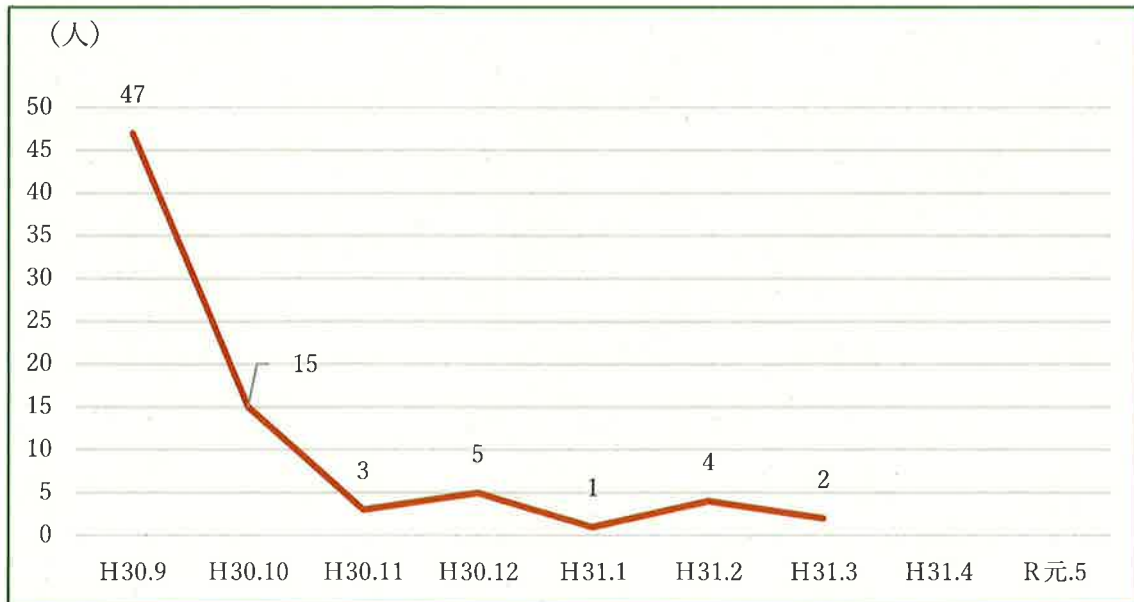
(77 人の内訳)



(コメント)

労働基準監督署の管轄区域別では、岸和田署管内が最も多く、次いで大阪南署、西野田署管内が続く。また、泉州地域を管轄する 3 署（堺署、岸和田署、泉大津署）で 28 人と全体の 3 割強を占めている。

(表 19) 台風 21 号通過後の復旧工事等に係る月別発生状況 (77 人の内訳)



(コメント)

月別の被災者数は、9 月以降急激に減ってきているが、今年に入ってからでも災害は発生している。

建設業における

『墜落災害』を防ぎましょう。



H30 年台風 21 号による
災害復旧工事等に係る屋根等からの墜落災害が多発しています！！

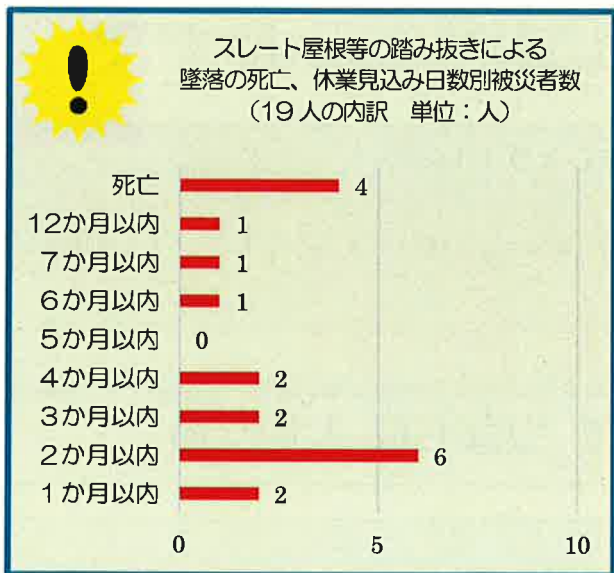
H30 年台風 21 号による災害復旧工事での建設業における災害は、『死亡災害』が 7 件発生し、いずれも「墜落、転落」によるものです。また、休業見込み日数が 4 日以上『死傷災害』では、全被災者数 77 人のうち約 6 割（47 人）を建設業が占めています。（令和元年 5 月末速報値）



《今も事故は続いています！！》

平成 30 年 10 月以降順調に減少していますが、現在も住宅家屋や工場等の屋根など高所作業を伴う復旧工事が続いています。

これからの台風など自然災害に伴う屋根工事等についても、事前に自主点検を実施してください。（裏面参照）



《建設業の災害復旧工事の傾向について》

死亡災害のすべて、そして死傷災害 47 人のうち「墜落、転落」による災害は 8 割を超えています。復旧工事では、雨を伴う強風による被害を受けた屋根工事が多く発生し、緊急性を要することから見積りのためやブルーシート設置など応急措置を行うため営業職や監督職が安全帯を使用せず屋根に上り、弱くなったスレート部や明り取り部を踏み抜いて墜落するという災害が多数発生しています。

踏み抜きによる墜落災害の被災者は 19 人で、多くのケースで死亡または骨折等により 2 か月以上の休業を要するケガを負っています。



厚生労働省 大阪労働局・各労働基準監督

<https://jsite.mhlw.go.jp/osaka-roudoukyoku/>

《災害復旧工事等でのスレート等屋根の踏み抜きによる死亡災害事例》

事故の型	年齢	経験年数	発生状況
墜落・転落	60代	27年	台風21号により損傷した屋根の応急措置としてブルーシートによる養生を行うため屋根の梁部を通行中、誤ってスレート部分に足を掛け、踏み抜き、約12mの高さから墜落した。
墜落・転落	50代	35年	台風21号により被災した倉庫の屋根を修理するため、補修材を持ち、屋根上を移動中、スレートを踏み抜き9.8m墜落した。
墜落・転落	70代	50年	台風21号により破損した屋根明かり取り用FRP波板交換作業のため、スレート葺き屋根に登り、幅21センチメートルの歩み板2枚の上で交換作業を行っていたところ、スレートを踏み抜いて約4メートル墜落した。
墜落・転落	40代	8年	台風21号により破損したスレート屋根補修作業中に、スレートを踏み抜き、高さ約10mから墜落した。

《屋根工事前には自主点検を実施してください》

<input type="checkbox"/>	施工箇所の点検の実施	屋根の形状、材質、損傷の程度など施工する屋根の状況を総合的に点検しましょう。
<input type="checkbox"/>	施工計画の作成	上記状況を把握した後は、リスクアセスメントを活用し墜落、転落災害防止に関する施工計画を作成しましょう。
<input type="checkbox"/>	踏み抜き防止措置	スレート、木毛板等（FRP製の波板等）の材質の屋根等での作業では、歩み板、防網等を設けましょう
<input type="checkbox"/>	手すり等の設置	高さ2m以上の作業床の端、開口部等には、手すり、囲い等を設けましょう。
<input type="checkbox"/>	足場からの墜落防止措置	本足場の設置を原則とし、足場の種類の応じ、手すり、中さん等の墜落防止措置を講じましょう。
<input type="checkbox"/>	足場の点検の実施	毎日の作業開始前、足場の組立て、変更時には、事前に足場の点検を実施しましょう。
<input type="checkbox"/>	作業主任者の選任	高さ5m以上の足場の組立て、解体等の作業時には、「足場の組立て等作業主任者」を選任しましょう。
<input type="checkbox"/>	2丁掛け墜落制止用器具の点検の実施	ランヤードの損傷、摩耗、フック、D環の変形・損傷等について点検を実施しましょう。
<input type="checkbox"/>	安全衛生教育	雇い入れ時の教育及び新規入場者への送り出し教育の徹底や職長、安全衛生責任者等の資質向上のための教育を実施しましょう。



二丁掛けフルハーネス型安全帯を使用しましょう！！



命綱GO活動 実施中！

いのちづな つか 命綱 使って つなGO 大切な命

リスク"ゼロ"大阪推進運動

～ 取り組もう！ 5つの活動 ～

◆ スローガン ◆

『リスク無くして、ゼロ災害』

安全見える化活動

安全 Study 活動

リスク評価推進活動

命綱GO活動

今日も一日ご安全に活動